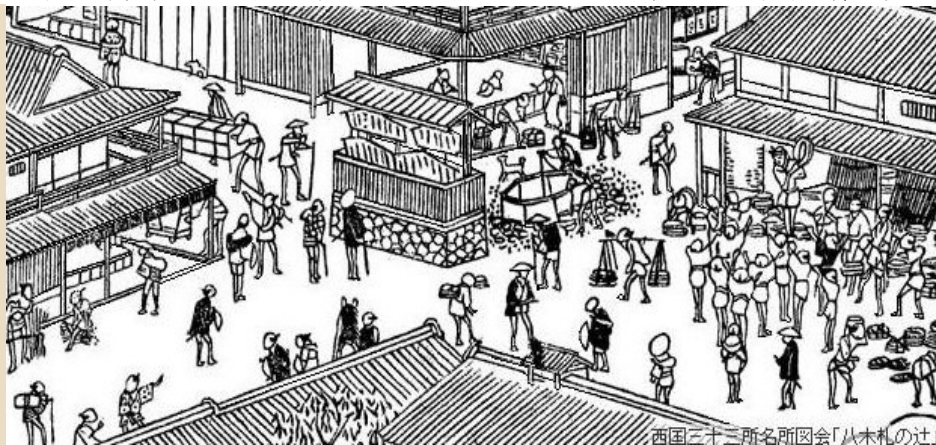


大和八木 まちづくり 新聞

No.05
2011年
7月号

特定非営利活動法人八木まちづくりネットワーク



西国三十三所名所図会「八木札の辻」

NEWS

■ 東の平田家の改修工事始まる

八木の数ある魅力の中で、ここならと言え場所が「札の辻」です。

今から1400年も前からの存在が確認されている「横大路」と「下ツ道」が生活の重要な要素として、また生活道路として今も八木の町のメイン舞台として存在しています。



改修工事の始まった東の平田家(橿原市指定文化財)は江戸時代の旅籠で「西国三十三所名所図絵」(嘉永6年(1853))の「八木札街」に描かれていて今もその面影をよく残している建物で「札の辻」の景観や町並みにとって重要な歴史資産です。工事が始まったばかりで、これからいろんな事が判明し、保存されることで地域の活性化に大いに貢献することになると思われます。

こうして全国的にも珍しい旅籠の歴史遺産として保存・活用が決まったのですから、地元である八木の住民に、その歴史的な価値や、保存への取り組みの道筋、建物の活用方法、工事の詳細などの説明がされることを期待します。

■ 6/11 NPO八木ネット総会



平成23年度NPO総会が14人の出席で開催され、事業報告や計画が協議され、また理事長と理事の改選を議決しました。

■ 畝傍高校、登録有形文化財へ

昭和8年に八木地区の強い要望で誘致され、おなじみの校舎本館が建設されました。

関東大震災後の建物で、耐震を考えた鉄筋コンクリート造で、東洋趣味を加味した仏塔風日本建築といわれています。設計に携わった岩崎平太郎は吉野の下市町出身で近鉄吉野駅設

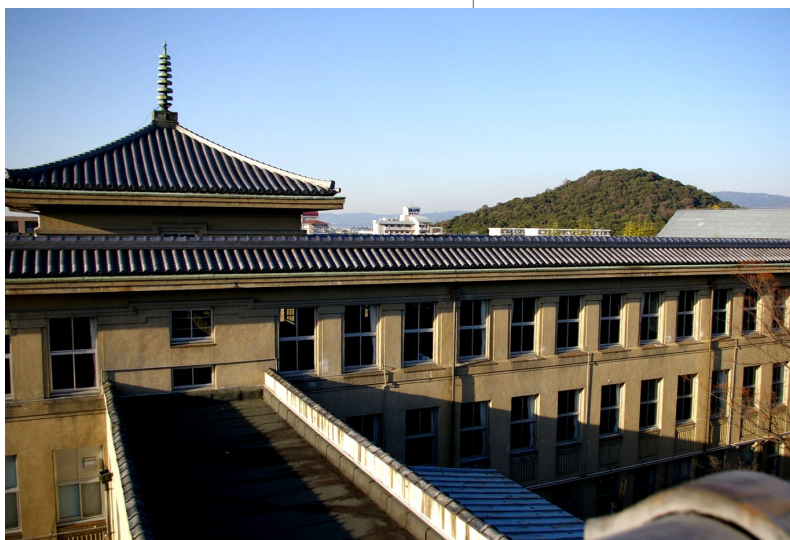
計などで奈良県にゆかりの深い建築家です。

現在、国の登録有形文化財の手続きが進行中です。奈良県所有の学校建築では初めての登録文化財になる見込みです。

■ 4/1大和・町家バンク活動スタート



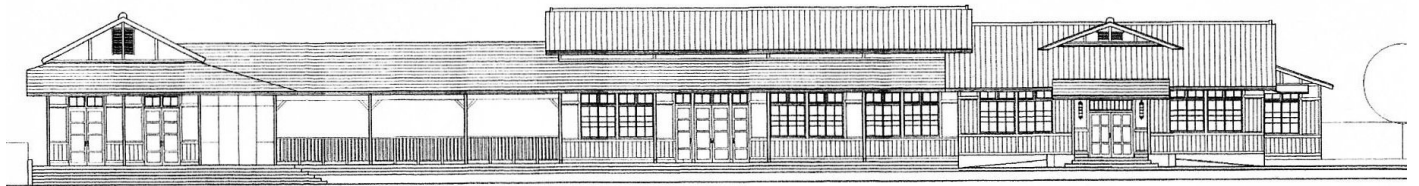
奈良県に残る多くの伝統的な建物で、価値ある町家などの空き家情報を発信する活動とホームページがスタートしました。今井や宇陀松山、五條などの重要伝統的建造物群保存地区を中心に八木や大和高田、三輪などが連携して地域の活性化につながるようにと取り組んでいます。家を探している



方、家を貸したい方はご利用下さい。(大和・町家バンクネットワークの事務局はNPO法人今井まちなみ再生ネットワーク)

JR畝傍駅のもうひとつの顔

貴重な鉄道史が八木の身近な駅にあります



今回はおなじみの「畝傍駅」を取り上げます。

現 在はJR西日本の駅ですが、最初は大阪鉄道という私鉄が、明治20年、大阪湊町から畝傍御陵への参拝を目的に計画を始め、御陵近くの今井に駅を作る計画が進められていました。当時の鉄道は神社仏閣参りなどの観光のために敷設されることが一般的でした。畝傍御陵の参拝用の駅ですから「畝傍駅」だったわけです。しかし、当時の今井の人たちは、今では考えられない理由で反対し、駅の計画は八木に移されることになり、名前がそのまま残ったということです。八木にあって畝傍駅と呼ぶのはこのようなわけがあったのです。

駅が開業した明治26年当時の畝傍駅界隈は八木の町はずれでしたが、駅ができることで、まちの中心が、南北の下ツ道から駅前の東西の道になりました。その後、この駅の近くに役場、銀

行、郵便局、旧制畝傍中学校が設けられるのも無関係ではありません。この鉄道が下ツ道を横切るところには、踏切の他に、今の言葉で言えば「跨線橋」が設けられていましたが、この跨線橋は近年撤去されました。

畝傍駅は畝傍御陵に参拝される皇族の乗降駅として活用され、貴賓室が設けられた数少ない駅でもありました。明治26年築の駅舎は昭和天皇御大典記念として昭和3年に建替えられました。残っている写真によると、この駅も白ペンキ塗の洋館だったようです。

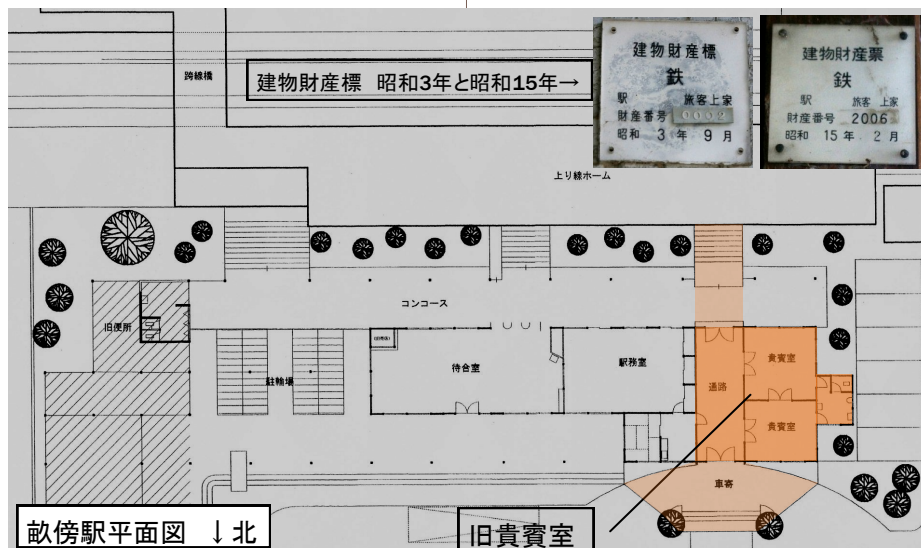
その後昭和15年の紀元2600年に、橿原神宮を中心として国家プロジェクトが行われることとなり、駅舎の建替えが行われました。現在ある三代目の駅舎です。この駅舎は橿原神宮造営でたいひ使われた台桧(台湾産桧材)をこの駅でも採用し、駅舎が白木造といういかにも神道を思わせる建築に仕上げたところが特徴です。当時は大量の乗降



客をさばけるよう、団体待合室を設置していたのですが、この部分は取り壊されました。現存する貴賓室は、照明器具・家具が取り払われて、過去の面影はありませんが、ここに設置されていたシャンデリアが、JR西日本に保管されていることが分かりました。

また、現存する東行きプラットフォームは昭和3年の標識があり、築83年という古い建築です。反対の西行きプラットフォームは記載がありませんが、装飾などから推定すると東行きより古いようです。

これ以外にもプラットフォームがあり、それが吉野鉄道でした。この鉄道は駅から東に大きくカーブして橿原神宮駅を経て吉野に至る鉄道でした。この鉄道は現在ありませんが、線路を敷設してあった場所の痕跡は町の中に残っています。また、この鉄道敷設に必要な土砂は近くを掘削し、そこを池にしたと云われています。



■よしてつの池

現JR畷傍駅の南側に「よしてつの池」と言われた池があったことはまだそんなに遠い昔の話ではないと思います。

「よしてつの池」の名前の由来を先日、八木の西村政一さん(近鉄OB)、南八木の崎山圭俊さんに聞かせていただきました。

まずわかったことは、当時の国鉄畷傍駅は駅舎としてもうひとつの顔があったということです。国鉄畷傍駅に吉野鉄道吉野線(現近鉄吉野線)が乗り入れ国鉄畷傍駅が吉野への連絡駅であった時代がありました。

現JR畷傍駅は2本のホームがありますが、当時は南側にもう1本ホームがあり(今は線路沿いの道になっています)、そのホームが吉野鉄道(現近鉄吉野線)の吉野への乗り換えホームでした。大正7年頃から吉野山地での林業が大変盛んであったため、貨物需要の取り込みを目的に国鉄畷傍駅との接続構想が生まれ、大正13年11月1日に吉野鉄道の小房線(榎原神宮駅—小房駅—畷傍駅)が開業しました。そして、その小房線の敷設のために当時の畷傍駅南側で土を取ったようで、その跡が池になり「吉鉄の池」と言われたのが理由のようです。今は元通りになり住宅地になっています。

その吉鉄・小房線は昭和25年に休線となりました。

紀

元 2600 年(昭和 15 年)、旧制の畷傍中学(現・畷傍高校)の2年生であった崎山さんはこの吉鉄(吉野鉄道)の小房線を利用して榎原神宮の草刈りの奉仕活動や高市郡の運動会参加などで榎原神宮駅まで行ったそうです。1時間に1本で1~2両連結であったようで、当時でも乗客は少なかったようです。畷傍中学校で学ばれていた崎山さんは、「昼頃

になると決まったように貨物列車が来るのが窓から見え、いったん停車して、そしてピッピーと吹鳴して畷傍駅に向かって走り出すともうすぐ弁当の時間だとの合図になっていたんです」と懐かしそうに話していただきました。また学校でのこんな思い出もお聞きしました。

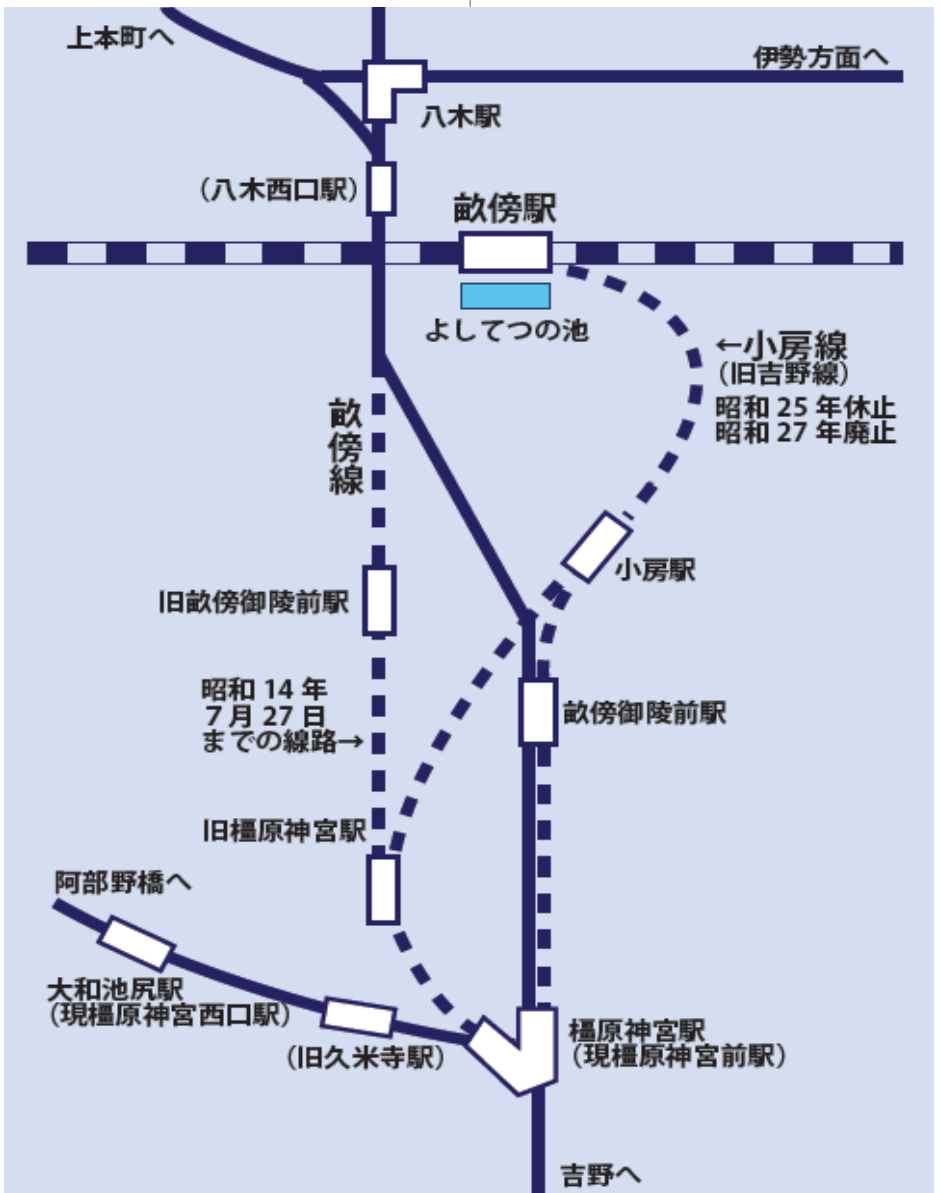
畷

傍中学では各クラスの級長、副級長は銀色の星形の襟章、10名ほどの成績優秀者は小判型の金色の襟章を付けることになっていて、席も級長は一番後ろのスミ、副級長は一番前のスミに決まっています、中学5年生の級長にいたっては下級生にとっては雲の上の存在で、当時の軍国体制の中での軍事教練では5年生



の級長がサーベル(刀剣)をさげ颯爽と指導する姿は今も思い出されるようで、そして各学年の級長、副級長には八木の人が多く、それだけ八木の人には成績優秀な人が多かったようです。

参考資料: 近畿日本鉄道100年の歩み/ 2010、榎原市史/1986、目で見る榎原・高市の100年/1993 郷土出版社
建築メモ: JR西日本桜井線畷傍駅駅舎、旧貴賓室/S15、旅客上屋/S3、袴線橋(S造)/S54



八木のいろいろ情報

★JR畝傍駅駅舎活性化への提言

平成16年度にJR畝傍駅活性化懇話会が橿原市の主催で開かれ、提言書が提出されましたが、17年4月のJR福知山線の脱線事故により活性化に向けた活動は中断し、そのままとなっています。(下の写真は貴賓室で使われていた照明器具で、今も大阪市にある交通科学博物館に残っています。)



★畝傍駅のひとつま-七夕かざり

7月に入ると畝傍駅の入り口に「七夕かざり」があらわれました。お母さんと子供さんらで飾りつけられたようです。

畝傍駅駅舎玄関横のエントランスでは、年間を通じて活発に活動されている八木町の老人会である八寿楽木会やすらぎの会員の方々が、4月より毎朝ラジオ体操をされています。



また世話役さんをはじめ会員の方々は、毎朝のラジオ体操の前に、駅舎や駅舎周辺を清掃をしたり、改札口周辺に花を飾ったりして、地域の貴重な資産である場所を大切に活用しながら、乗降客が気持ちよく利用できる駅になるよう活動されています。



★畝傍駅貴賓室前の「橿原神宮」の碑

大正4年にこの碑文は建設されました。ただ正面に大書の「橿原神宮」の文字。

これは碑というよりも道案内のようにも看板のようにも見えますが、その意図するところは何だったのでしょうか。



道案内であれば、よくあるように矢印を付けるか、西南5丁などその意図するところを書き込むでしょうか何もなく、ただ「橿原神宮」と立派な字で書かれているだけです。

もう一回り大きい「橿原神宮」とだけ書いた碑は、橿原神宮一の鳥居の右にあります。これは時代が下がり、昭和15年のいわゆる紀元2600年にあわせて建立され、大阪市民の寄贈となっています。こちらの方は神宮の看板、記念写真撮影の背景に入れるという実利的な要素もあります。しかし、この畝傍駅前にあるこの碑は何だったのでしょうか。この大きさで、文字も書家に依頼して書かせたとするとかなりの高額の出費だったことでしょう。

起案者は、当時の町のお歴々であることは、名前から判断されます。この名前の順番が「イロハ順」とあり、「あいうえお順」が大正4年頃は、まだ世の中に浸透していなかったことがこのことからわかります。

大正4年という年はどういう年だったのでしょか。大正天皇御大典記念かもしれません。ここに100年近く建っている、この碑文の由来を知る人は教えてください。

★奈良・町家の芸術祭に参加決定!

HANARART はならあと

奈良県の強みである歴史的な町家や町並みを活かし、現代アートや花を通して地域の活性化を目指すイベント「奈良・町家の芸術祭HANARART」が地域のまちづくり団体と協働して開催されることになり、八木からも応募したところ、10月8日～16日「八木札の辻周辺の三カ所」で開催されることになりました。(企画:奈良県地域デザイン推進課)

「ハレ(祭)の空間=華やかな空間」を創出することにより、地域の活性化につなげるという想いを込め、華(HANA)と奈良(NARA)と芸術(ART)により「HANARART」と名付けて県下7地域で10月8日から10月30日までの間、リレー形式で開催されます。

今秋は歴史と芸術・文化を楽しむ「八木」をお楽しみに。(写真:福島家)

10/8～16 今井、八木、五條新町
10/15～23 三輪、宇陀松山
10/22～30 ならまち、郡山城下町



特定非営利活動法人
八木まちづくりネットワーク